

上野「文化の杜」新構想推進会議・ワーキンググループ（第2回）議事メモ（案）

開催日時：平成26年2月25日（火）13：00～15：05

開催場所：東京藝術大学事務局第2会議室

出席者：辰野国立文化財機構理事、栗原国立文化財機構事務局長・（兼）東京国立博物館総務部長、小松国立西洋美術館副館長、折原国立科学博物館理事、小室東京都美術館副館長、桜庭東京文化会館副館長、鈴木上野の森美術館事務局長、堀東京都文化振興部企画調整課文化政策担当課長（関東京都生活文化局文化振興部部長代理）、北郷東京藝術大学理事、畑中東京藝術大学理事・（兼）事務局長、平林文化庁政策課長

オブザーバー：田辺台東区文化産業観光部長、大澤東日本旅客鉄道（株）事業創造本部長、杉村東日本旅客鉄道（株）投資計画部次長

臨時出席：上野大臣政務官

欠席者：五十嵐東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長

● 議事に先立ち、次の進行を行った。

1. 開会
2. ワーキンググループ・オブザーバー紹介

● 議題

（議題1）前回の議事メモの確認について

事務局より配付資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

（議題2）上野「文化の杜」新構想に関する共通の課題・提案等について

座長から標記について提案があり、各機関における新構想に関する共通の課題・提案等の報告の後、意見交換等を行った。

また、座長から事務局に対して本日の議論を踏まえ、新構想に関する検討の方向性（素案）を取りまとめるよう指示があった。

（主な報告及び意見交換等）

- ・ 広報活動の強化やグローバル化に関する取組として、各施設共通のホームページやブログの開設の他、成田・羽田空港における各施設協働の広告・宣伝を実施する必要があるのではないか。また、バリアフリーや多言語化、さらには、日本文化発信の国際拠点を目指してアニメを含めた日本の伝統文化を魅力的に発信する施設の設置が必要。
- ・ 集客方法の一つとして、上野地区全体で取組む年中イベント（一体感をもって）の開催、上野公園のテーマパーク化、教育と関連づけた「体験型のイベントやワークショップ（遊学）」の開催の他、各施設でのプロジェクション・マッピングイベントやネオ屋台村の誘致等により滞留、賑わいを演出してはどうか。

また、各機関共通チケットの販売や入場料無料の開放日の設定、各機関の休館日の調整が必要。

- ・ 共通チケットの発行や各種の共通イベントを企画・運営するため、上野「文化の杜」プラットフォーム事業として、NPO法人の設立も考えられる。
- ・ 上野公園の夜間対策として、各施設や竹の台広場等にイルミネーションや人工炎の照明等を設置してみてはどうか。
- ・ 各機関の土地・施設は限られており、3000万を受け入れるためには、上野公園の自然や景観への保護、国立西洋美術館の世界遺産登録への配慮を考えると、地下化構想が不可欠ではないか。
- ・ 上野地区に不足しており、今後特に拡充が必要な施設として、ホテル、託児所、休憩スペース、学校等団体向け滞在場所、食堂、カフェテリア、共通ミュージアムショップ、バス・タクシー乗り場、駐車場、障害者用駐車場、インフォメーションセンター、防災備蓄庫等が挙げられる。
- ・ アクセスポイントの整備として、京成電鉄博物館動物園の再開、M字交差点の整備、上野公園内の主要施設に停車する汽車型園内バス（パークトレイン）、上野公園内、谷根千、本郷、東京駅等を結ぶトロリー等の運行が必要。
- ・ 上野地区の環境整備として、JR上野駅公園口前区道及び東京国立博物館前の都道の車両通行制限又は地下化（東京文化会館、国立科学博物館、東京都美術館及び上野の杜美術館搬入路を含む）が必要。また、上野駅公園口の位置移動も考えられないか。
- ・ 国家戦略特区構想として、建坪率の緩和や寄附金の全額損金算入化等税制上の優遇措置の他、パフォーミングアーツ等による上野公園やその周辺の占用許可の緩和措置が考えられる。

●（議題3）今後のワーキンググループの開催について

事務局より、資料2に基づき説明の後、意見交換を行い、次回は、本日の議論を踏まえたワーキンググループの検討の方向性（素案）を審議し、それを踏まえたヒアリングを行うこととした。

●その他

委員より、台東区及び東日本旅客鉄道(株)の正式メンバーに関して提案があり、事務局において調整することとした。

●上野大臣政務官からの要請

- ・ 下村文部科学大臣の構想では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、選手のみでなく文化やアーティストをたくさん招き、そのイベントや文化の中心地＝ハブを上野地区としたいと考えている。
- ・ 文部科学省においても、様々なアイデアを募るべく若手職員による意見交換の場を設けているので、ぜひそれとも連動していただきたい。
- ・ 藝大の学生にも様々なアイデアを出してもらい、意見交換の場を設けてはどうか。